

決算説明資料

2020年3月期

株式会社ユビキタスAIコーポレーション

代表取締役社長 長谷川 聡

2020年5月15日

Index

- 2020年3月期 業績の概要
- セグメント及び製品分野別動向と取り組み
- 新型コロナウイルス感染症の影響による事業リスク
- トピックス

2020年3月期 業績の概要

2020年3月期の概況

業 績

- 連結売上高 : 2,346百万円
(計画比 3.0%減／前年同期比 2.5%減)
- 連結営業利益 : 35百万円
(計画比 254.8%／前年同期比 54.1%減)

セグメント別概況

ソフトウェアプロダクト事業

売上は前年比減となるも、ロイヤルティ売上の増加により、営業利益増

ソフトウェアディストリビューション事業

売上・営業利益とも前年を下回るが、ほぼ計画どおり

ソフトウェアサービス事業

売上は前年比増となるも、営業利益が前年を下回るが、ほぼ計画通り

中期経営目標に対する結果

ユビキタスAIコーポレーション グループ 組込みソフトウェアNo.1ベンダーへ



※ 売上高（営業利益）
単位：百万円

2021年3月期
計画：2,550（30）

- 収益増を確実にするため、2020/3期からの施策継続による足場固め
- 2020/3期からの新規取り組みの売上貢献開始

2020年3月期
計画：2,419（10）
実績：2,346（35）

- 2021/3期以降の収益増実現のための施策実施（採用・商材獲得・研究開発）
- Edge Trust等新規取り組みのビジネス機会創出
- 事業間シナジー（組み合わせ提案、エンジニアリング連携、海外パートナーとの共同開発案件発掘）

2022年3月期
計画：2,740（150）

- 2020/3期から2021/3期の新規取り組みの利益貢献開始と、エイム社の、のれん償却終了に伴う営業黒字増
- 2023/3期に向けた事業展開の加速

2023年3月期
売上高3,000百万円
営業利益率10%以上
を目指す

テクノロジートレンドを意識した新製品開発・新商材獲得

5G

CASE

IoT

Cloud

AI

Robotics

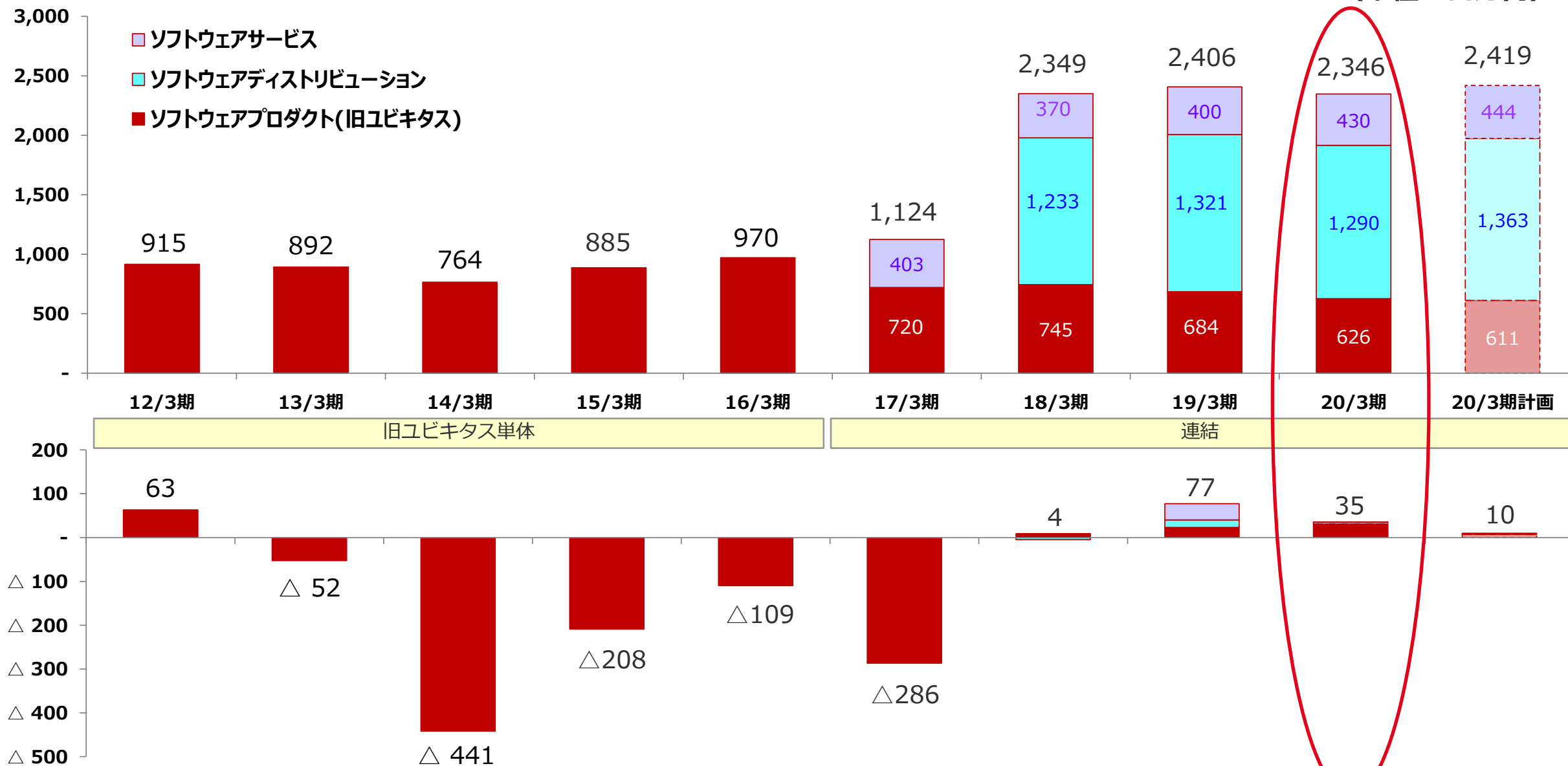
2020/3期、2021/3期：収益の安定化と次の成長に向けた取り組み
2022/3期：新規取り組み事業の利益貢献

海外パートナーとの共同開発による短期間かつコストを押さえた製品投入

IoTセキュリティ検証サービス、「Edge Trust」等パートナー連携によるサービスの拡大

売上高・営業損益の推移

(単位：百万円)



連結損益計算書

(単位：百万円)

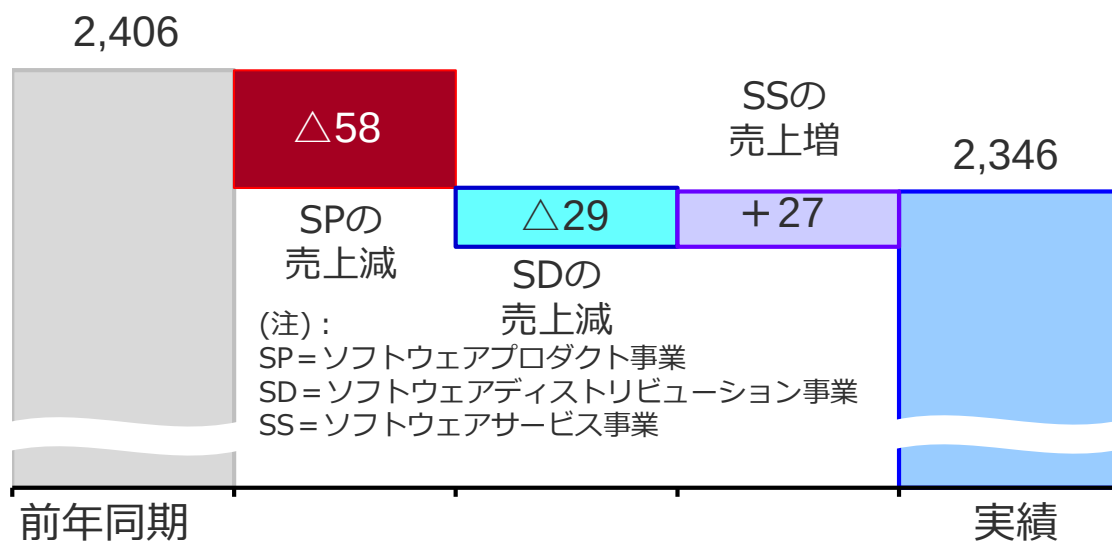
	2019/3期	2020/3期	増減	2020/3期 計画	増減
売上高	2,406	2,346	△60	2,419	△72
売上原価	1,213	1,226	12	1,318	△92
売上総利益	1,192	1,119	△72	1,100	19
販管費	1,115	1,084	△31	1,090	△5
営業利益	77	35	△41	10	25
営業外損益	23	3	△20	-	3
経常利益	101	38	△62	10	28
特別損益	△1	-	1	-	-
法人税等	35	△38	△73	2	△40
当期純利益※	64	77	13	8	69

※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

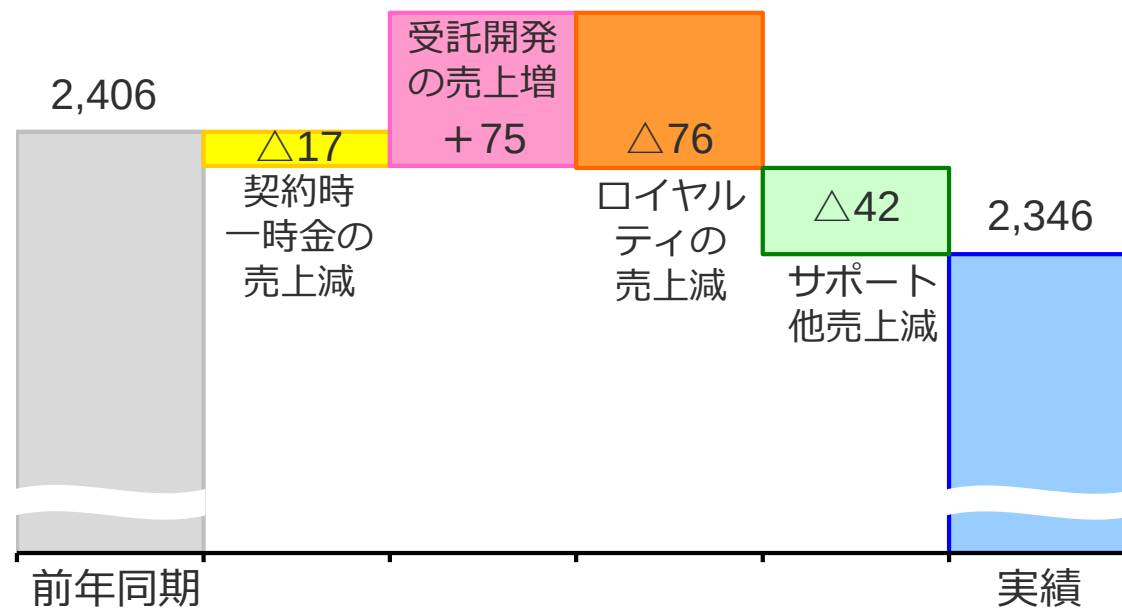
前年同期比：売上高

(単位：百万円)

事業別



形態別

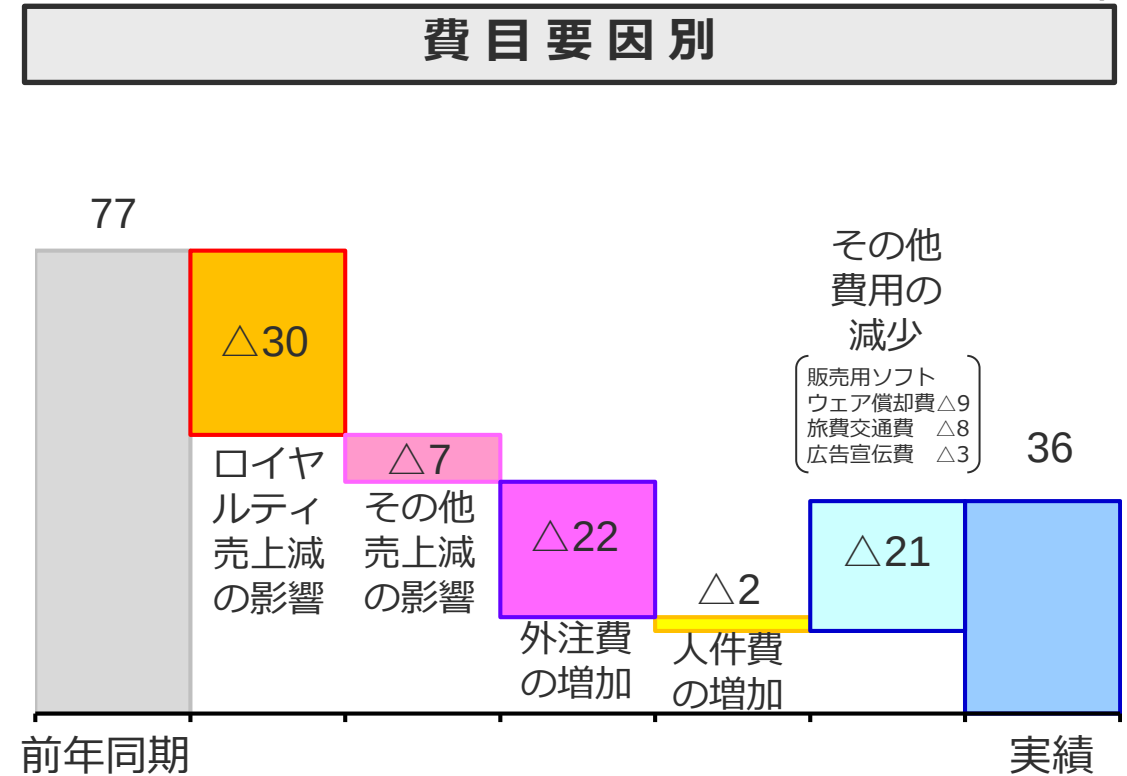
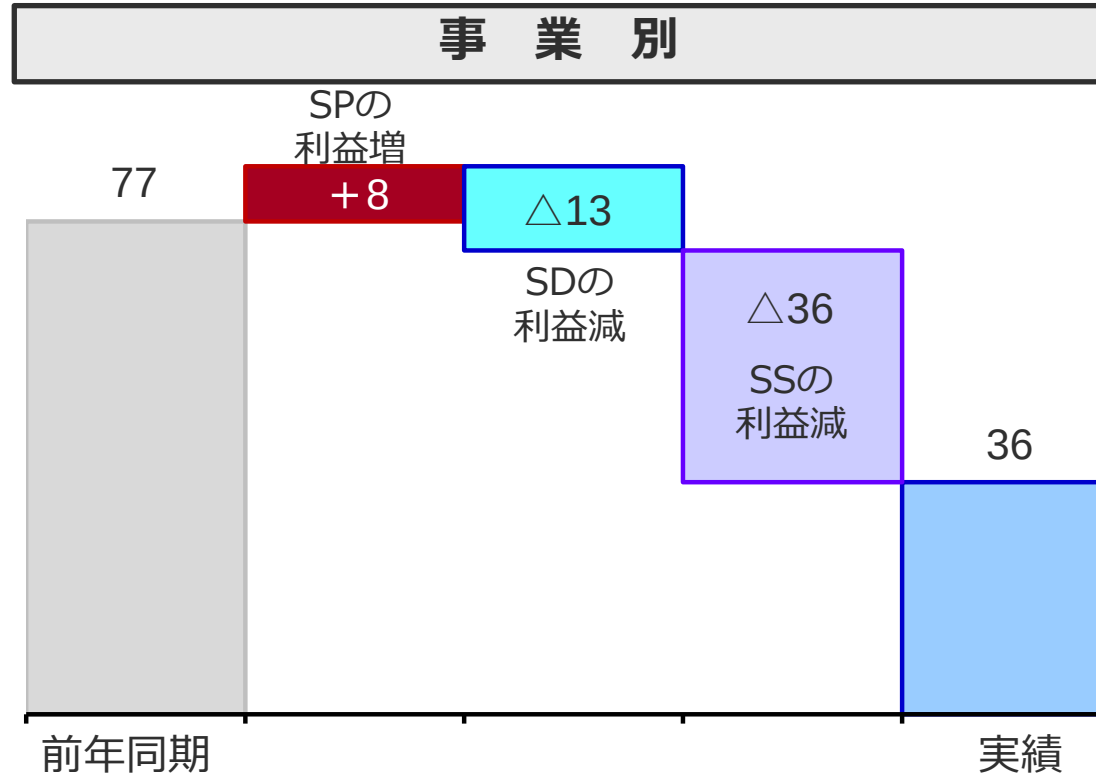


■ 前年同期比 売上高：受託開発が増加、契約時一時金及びロイヤルティ売上が減少

- SP事業： ロイヤルティ売上が増加、契約時一時金売上、受託開発売上が減少
- SD事業： 契約時一時金売上、受託開発売上が増加、ロイヤルティ売上が減少
- SS事業： 契約時一時金売上、ロイヤルティ売上、サポート売上が減少、受託開発売上が増加

前年同期比：営業利益

(単位：百万円)

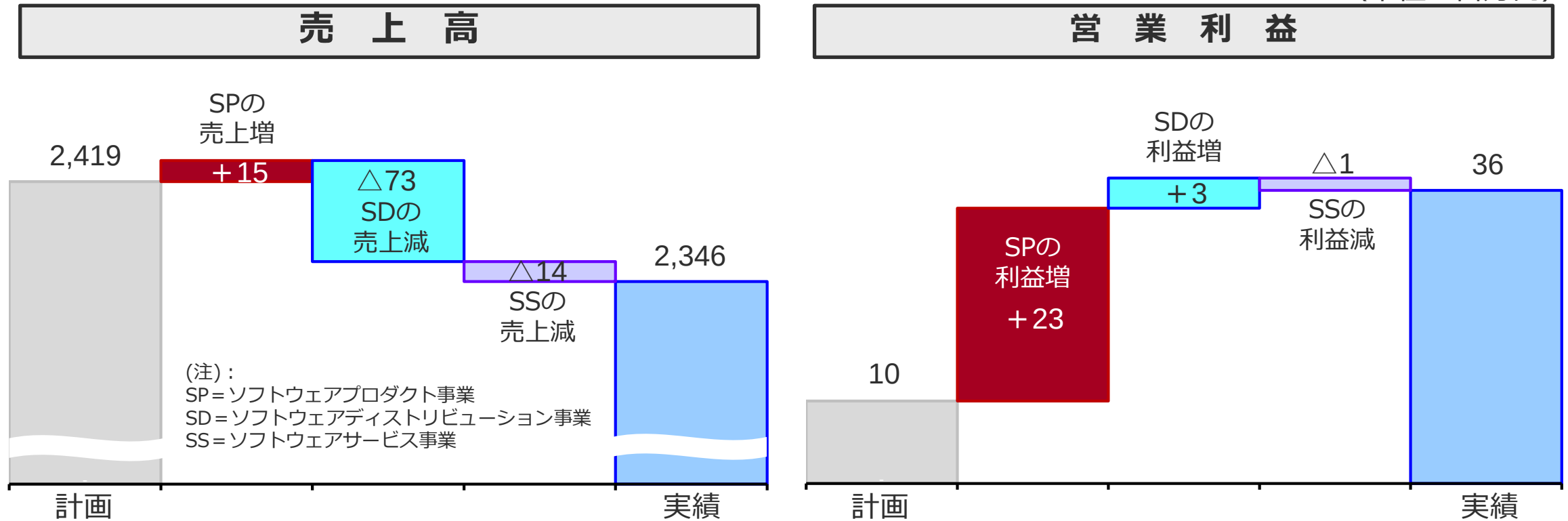


■ 前年同期比 営業利益：減少

- ロイヤルティ売上減少が影響
- SP事業：ロイヤルティ売上増加と受託開発売上減少により採算性が改善、営業利益が増加
- SD事業：ロイヤルティ他の売上減、及び人件費等の増加により、営業利益が減少
- SS事業：高原価率の受託開発売上の前期からの期ズレ、及び外注費の増加、ロイヤルティ売上減により、営業利益が減少

計画比：売上高・営業利益（事業別）

（単位：百万円）



■ 計画比 売上高：減少、営業利益：増加

- ロイヤルティ売上は微増したものの、その他の売上減が影響
- SP事業：ロイヤルティ売上増加により採算性が改善、営業利益が増加
- SD事業：売上は下回ったものの、原価率の低下等により、営業利益はほぼ計画通り
- SS事業：売上は下回ったものの、諸費用の低減により、営業利益はほぼ計画通り

連結貸借対照表（資産の部）

(単位：百万円)

	2019/3月末	2020/3月末	増減
現金・預金	1,159	934	△224
受取手形・売掛金	675	740	64
有価証券	400	800	400
棚卸資産	22	0	△22
前払費用	69	59	△9
その他流動資産	57	27	△29
流動資産	2,384	2,563	179
のれん	526	316	△210
その他固定資産	304	397	93
固定資産	831	714	△117
資産合計	3,215	3,277	62

連結貸借対照表（負債・純資産の部）

（単位：百万円）

	2019/3月末	2020/3月末	増減
買掛金	153	160	6
未払金	59	38	△21
前受金	110	91	△19
その他流動負債	75	92	16
流動負債	399	382	△16
固定負債	80	82	1
資本金	1,482	1,483	0
資本剰余金	1,452	1,453	0
利益剰余金	△236	△159	77
その他純資産	37	35	△1
純資産	2,735	2,812	77
負債・純資産合計	3,215	3,277	62

セグメント及び製品分野別 動向と取り組み

前年同期比:セグメント及び製品分野別売上高

(単位:百万円)

セグメント	分野	前年同期 (連結)	2020/3期 (連結)	増減率
ソフトウェアプロダクト事業	コネクティビティ&セキュリティ	224	127	△43.3
	データベース	98	86	△11.7
	高速起動	362	412	13.9
	小計	684	626	△8.5
ソフトウェアディストリビューション事業		1,319	1,290	△2.2
ソフトウェアサービス事業		403	430	6.8
合計		2,406	2,346	△2.5

前年同期比:セグメント別売上及び利益

(単位:百万円)

		前年同期 (連結)	2020/3期 (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	684	626	△58
	セグメント利益	22	31	8
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	1,319	1,290	△29
	セグメント利益	※1 17	※1 3	△13
ソフトウェアサービス 事業	売上高	403	430	27
	セグメント利益	※2 37	※2 0	△36

※1 旧株式会社エーアイコーポレーションの株式取得に関して生じたのれんの償却額 106百万円を含めております。

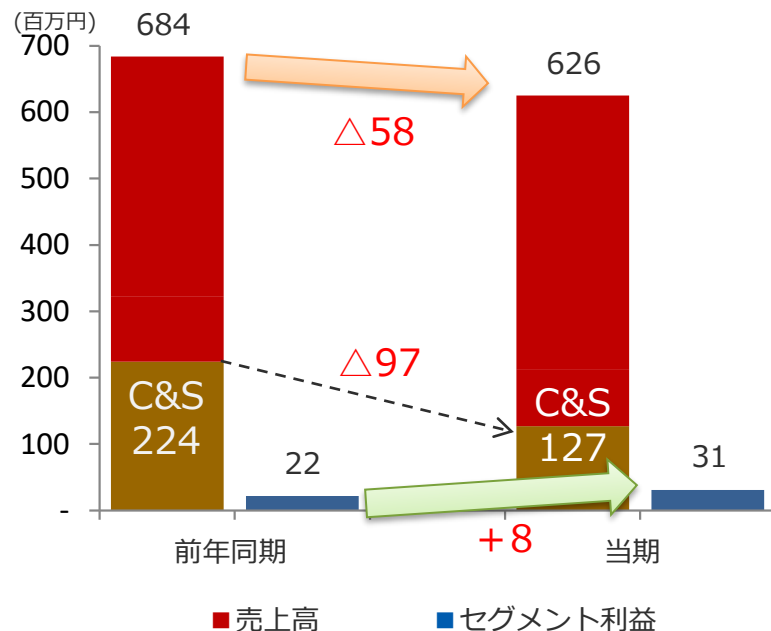
※2 株式会社エイムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 103百万円を含めております。

前年同期比:セグメント別売上及びのれん償却前利益

(単位:百万円)

		前年同期 (連結)	2020/3期 (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	684	626	△58
	セグメント利益	22	31	8
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	1,319	1,290	△29
	セグメント利益	123	110	△13
ソフトウェアサービス 事業	売上高	403	430	27
	セグメント利益	140	104	△36

コネクティビティ & セキュリティ関連

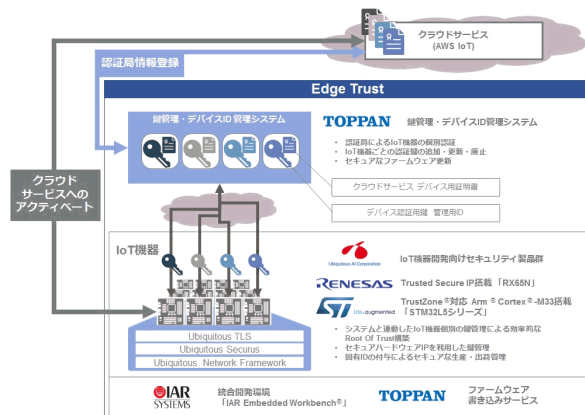


■ 当期概況

- スマートエネルギー関連、デジタルAV関連の案件で契約時一時金・受託開発・ロイヤルティ売上を計上
- IoT・スマートホーム関連で半導体メーカーとの研究開発案件売上を計上
- 「Edge Trust」（セキュアなIoTサービスを実現するソリューション）に関する受託開発売上を計上
- 「Edge Trust」に関する取組を活発化
 - ・「Edge Trust」で使用される独自技術を対象に、凸版印刷社と特許を共同出願（2019/11）
 - ・ラブロック社との間で、ブロックチェーンを活用したIoT機器のデータ改ざん防止ソリューションに関する業務提携を行うことにつき合意（2019/11）
 - ・ラブロック社との業務提携を緊密にして事業加速を実現するため、同社の第三者割当増資を引受（2020/1）
 - ・IoT機器の定期健診サービス「Edge Trust Health Check」の提供を開始。同時に、同サービス内で提供予定のIoT機器の安全性をスコア化する仕組みを特許申請（2019/12）

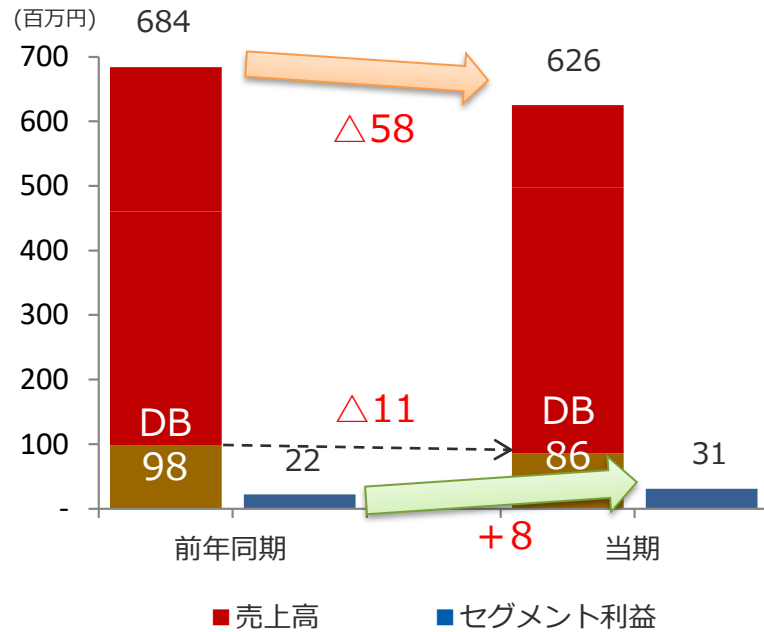
■ 取組方向性

- 「セキュリティ」をキーワードに、IoT・スマートホーム・AI関連の開発に注力、「Edge Trust」を軸としたIoTセキュリティ分野での事業展開強化



※グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、コネクティビティ & セキュリティ関連のみの売上です。

ソフトウェアプロダクト事業 データベース関連

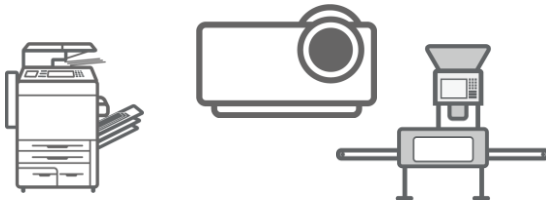


■ 当期概況

- 産業機器等の既存顧客のロイヤルティ売上を計上

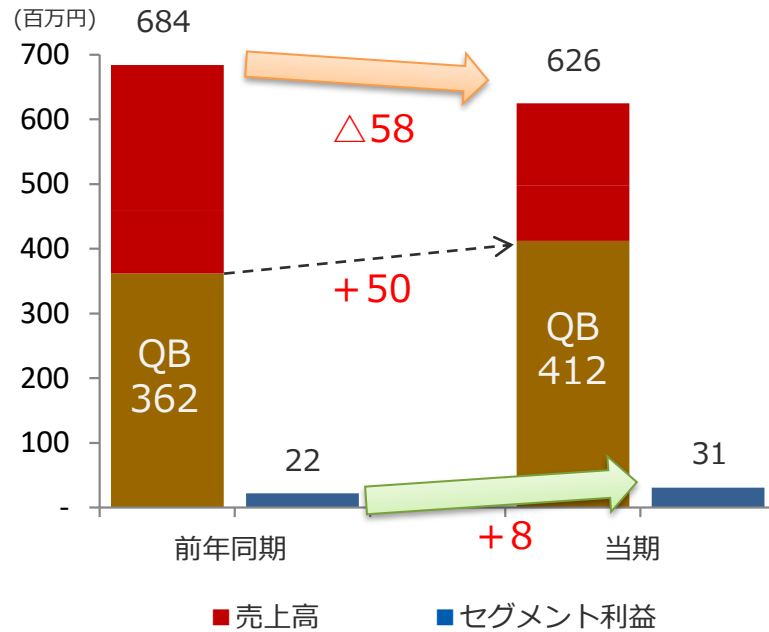
■ 取組方向性

- 既存顧客のサポートによる安定収益の確保
- 車載機器、OA機器、検査機器、産業機器などに向けた拡販



※グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、データベース関連のみの売上です。

ソフトウェアプロダクト事業 高速起動関連



■ 当期概況

- 既存の車載機器関連、海外民生機器の顧客からのロイヤルティ売上が堅調に推移
- 引き続き、カーナビ等車載向け機器を中心に、複数社との間で大・中規模案件の開発が継続中
- 商品化に向けた新規案件で、契約時一時金売上を計上

■ 取組方向性

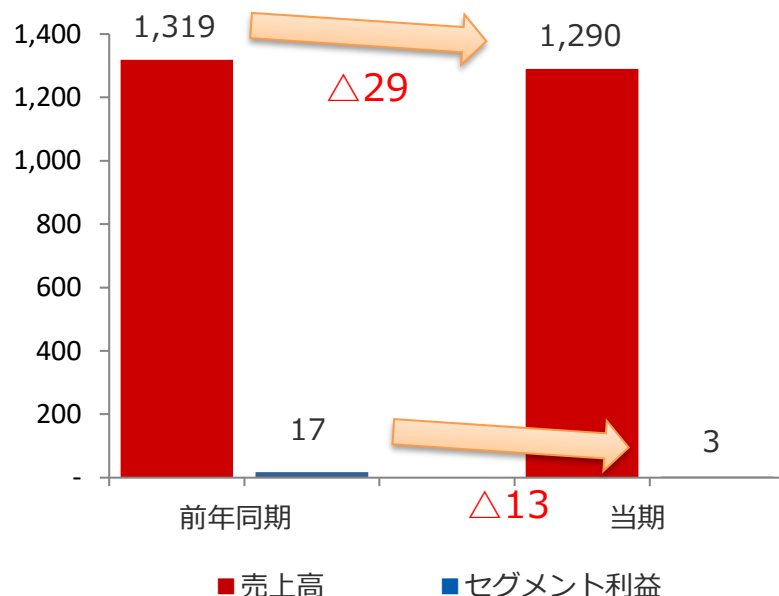
- 高性能半導体搭載の有力Linux/Android車載プラットフォームの拡充
- 車載情報端末以外の車載機器向けの拡販を強化
- 海外市場への展開強化
- 次世代技術開発の継続



※グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、高速起動関連のみの売上です。

ソフトウェアディストリビューション事業

(百万円)



■ 当期概況

- ワイヤレス製品：車載機器等の既存顧客から「Blue SDK*₁」のロイヤルティ売上等を計上
- BIOS製品：ノートブックPCの既存顧客から「Insyde H2O*₂」のロイヤルティ売上等を計上
- 品質向上支援ツール製品：車載機器、産業機器等の既存顧客から「CodeSonar*₃」やECU関連開発ツールなど年間ライセンスのリピート及び新規顧客からの年間ライセンス及びサポート売上を計上
- 新たに海外6社との販売代理店契約を締結、既存先新製品を含む11製品を取扱開始
- AI関連製品：新たにEkkono社（スウェーデン）及びDarwinAI社（カナダ）と代理店契約を締結、各種AI商材の販売を開始
- その他、多数の取扱製品より、新規、既存顧客からのロイヤルティ売上等を計上

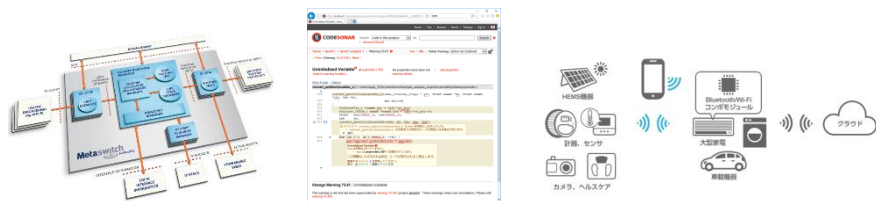
■ 取組方向性

- 品質向上支援ツール製品の販売・取扱を強化、IoT機器の脆弱性・セキュリティ検証ツールを活用したIoTセキュリティ検証サービスなどの新たな取り組みを推進
- AI・IoT・CASE・セキュリティ関連を中心に、訴求力のある製品ラインアップを拡充していく

*1 BlueSDK: Bluetoothプロトコルスタック

*2 Insyde H2O: 「EFI/UEFI」仕様を実装したC言語ベースBIOS

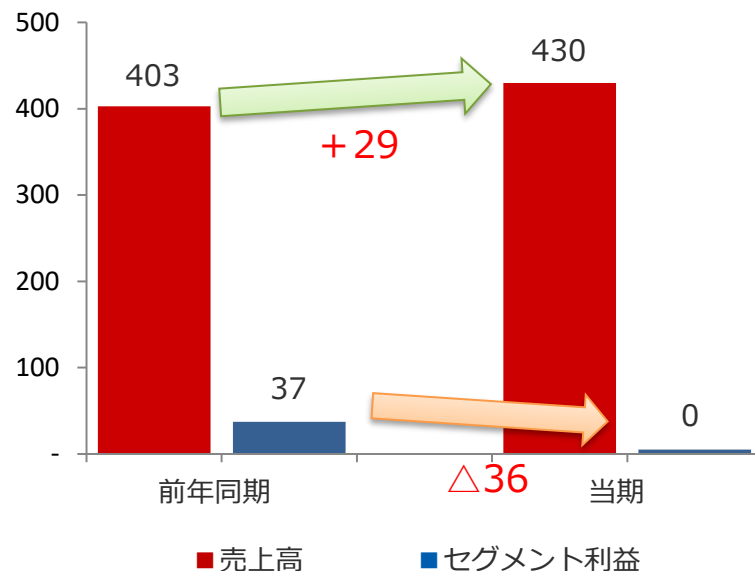
*3 CodeSonar: ソフトウェアの動作不具合、脆弱性をソースコードのコンパイル時に静的解析し、バグを検出するツール



ソフトウェアサービス事業



(百万円)



■ 当期概況

- 既存顧客との各種受託開発売上を計上
- 車載機器向けの「YOMIデータ」コンテンツに関するライセンス使用料売上等を計上

■ 取組方向性

- 米Gracenote社との密な連携による既存収益の継続的な確保と、協業提案による新たな取り組み
- 既存顧客・パートナー案件に加え、グループの製品・顧客関連のエンジニアリングサービス案件を軸に、グループ全体での売上シナジー実現



YOMIデータの活用例：アーティスト名ソート

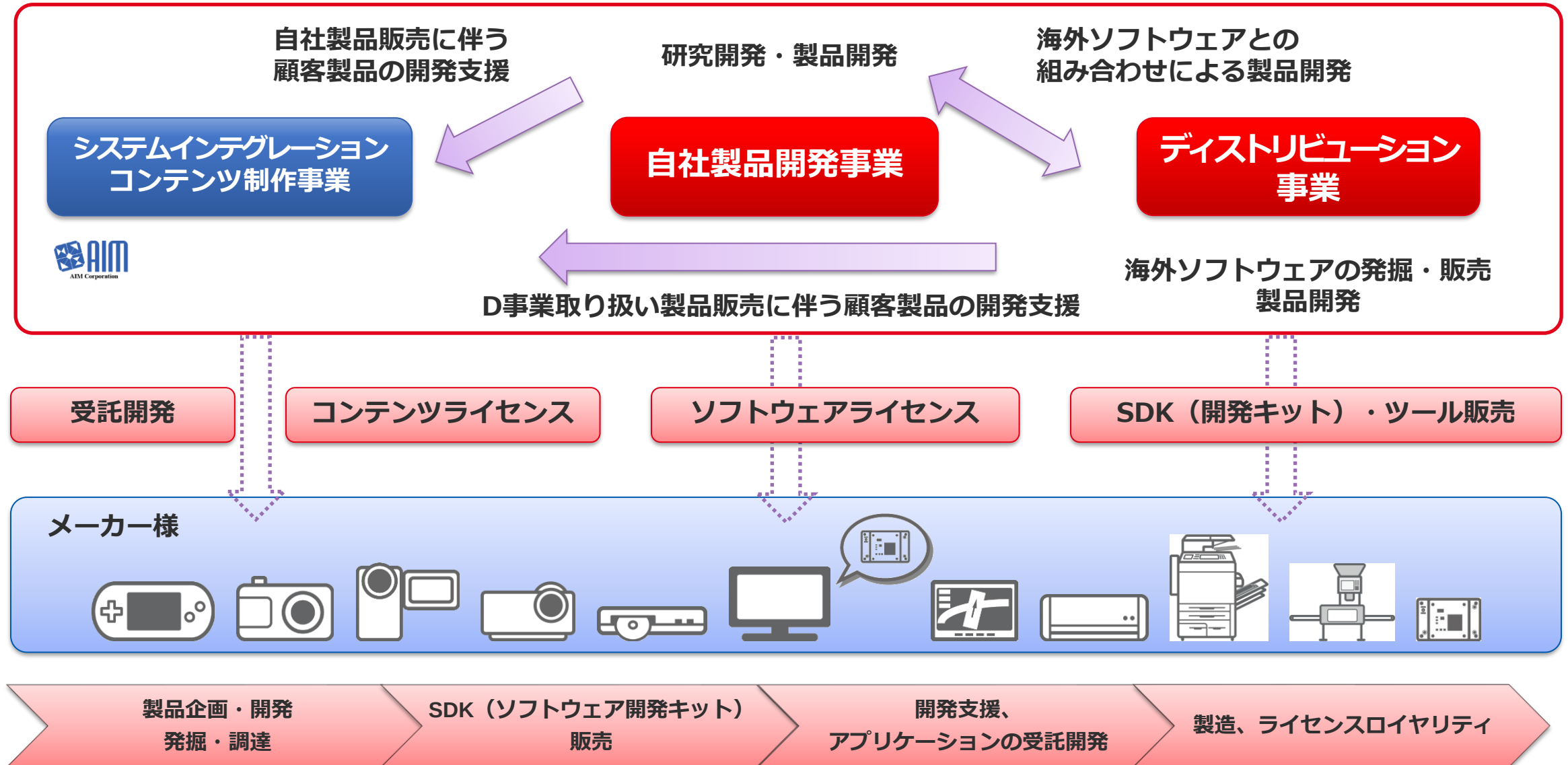
アーティスト表記	YOMI
さだまさし	サタマサシ
サザンオールスターズ	サザンオールスターズ
L'Arc-en-Ciel	ラルクアンシエル
松任谷由実	マツトウヤユミ

ソート順位	アーティスト表記
1	L'Arc-en-Ciel
2	サザンオールスターズ
3	さだまさし
4	松任谷由実

ソート順位	YOMI
1	サザンオールスターズ
2	さだまさし
3	松任谷由実
4	L'Arc-en-Ciel

新型コロナウイルス 感染症の影響による 事業リスク

当社グループの事業体制・ビジネスモデル



新型コロナウイルス感染症の影響による事業リスク

■ 経済状況・市場動向が影響するリスク

- － 自動車業界の動向が影響するリスク
 - ・ 同業界関連売上の事業収益に占める割合が大きい（約40%）
 - ・ 自動車の販売台数による影響：車載情報端末を中心とした製造ロイヤリティ収益への影響（日系車載機器サプライヤー様が中心、サプライヤー様の販売先・地域は海外を含む）
 - ・ 自動車関連企業の開発投資による影響：ソフトウェア開発支援ツール、各ソフトウェア開発キット（SDK）及び関連する開発委託業務への影響（国内企業が中心）
- － 経済全般の停滞が影響するリスク
 - ・ 景気低迷による民生機器（デジタルカメラ、ビデオレコーダー、情報端末など）の売上低迷による製造ロイヤリティ収益への影響
 - ・ 収益低下懸念による費用圧縮に伴う新規開発投資の抑制（電子機器全般）による、ソフトウェア開発支援ツール、SDK及び関連する開発委託業務への影響

■ テレワークによる限定された営業活動が影響するリスク

- － 展示会・セミナーなどの中止による露出・顧客獲得機会の減少が影響するリスク
 - ・ 製品の性質上（デモによる実装例、目に見えない機能・性能・特徴の説明が有効）有効な顧客訴求機会が限られる
 - ・ 顧客の性質上（主に製品企画・開発部門が対象）、製品・技術を必要とする顧客担当者との直接接触機会が限られる
- － 新規顧客訪問機会の減少が影響するリスク
 - ・ 新規顧客とのWeb会議などによる限定的なコミュニケーション機会、外部とのWeb会議が難しい顧客とのコミュニケーション機会減少

新型コロナウイルス感染症の影響による事業リスク

■ 想定される2020年度収益への影響

- 現時点では予測困難
- 日本国内及び世界の自動車販売数の3、4月販売実績（主要国は軒並み大幅減少）及び主要市場見通しは前年比2桁減の厳しい予想であり、当社グループ事業への影響も大きい

■ 2020年度事業計画及び現中期事業計画について

- 現時点では新型コロナウイルス感染症の影響は勘案せず、2019年度の結果を踏まえた計画の修正を検討中（6月上旬に開示予定）
- 四半期毎の結果を踏まえ、必要に応じて、業績修正を検討

トピックス

特許技術を活用したディープラーニングモデル最適化プラットフォーム 「GenSynth（ジェンソン）」販売開始（2/28）



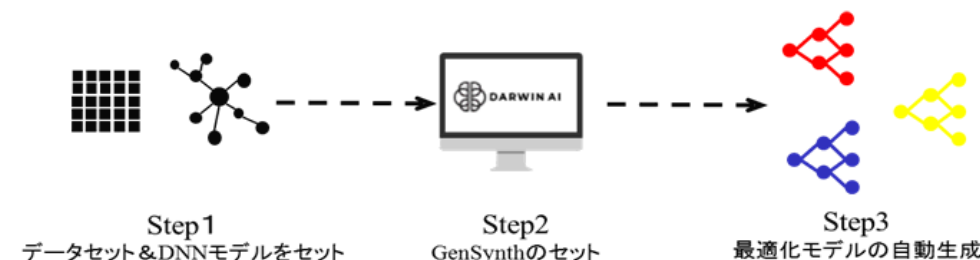
機能に制限のある組み込み機器でもサイズを圧縮しAIを実装可能に。
最適化プロセスの人的・時間的コストを低減する “AIを最適化するAI”

■ ディープラーニング開発の課題

- モデルの最適化に膨大な時間と人的コストが必要
- コンピューティングリソースの小さい機器へのディープラーニングの導入困難性
- ディープラーニングモデルの推論の説明可能性

■ 「GenSynth」の主な特長

- ディープラーニングモデルをAIで自動的に最適化
- モデルの**決定プロセス**が説明可能
- 最適化後に、H/Wベンダーのツールチェーンと組み合わせてデバイスに即実装可能（**高い汎用性**）

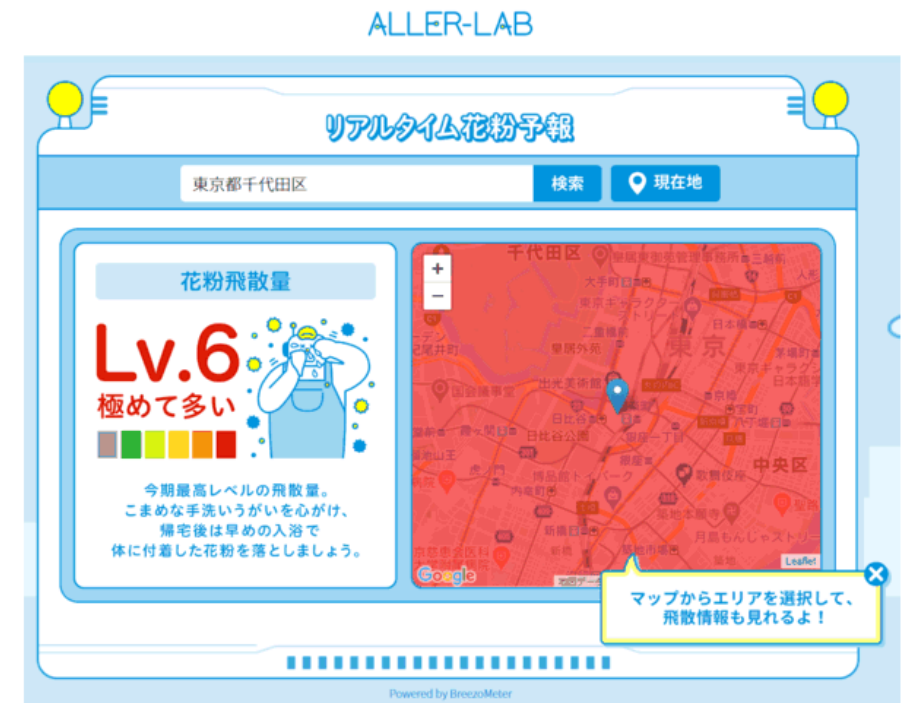


大正製薬株式会社が「BreezoMeter」を採用 (3/24)



ビッグデータを機械学習と独自アルゴリズムで複合的に検証し、
細かい地点精度でタイムリーに情報を取得できる点を評価

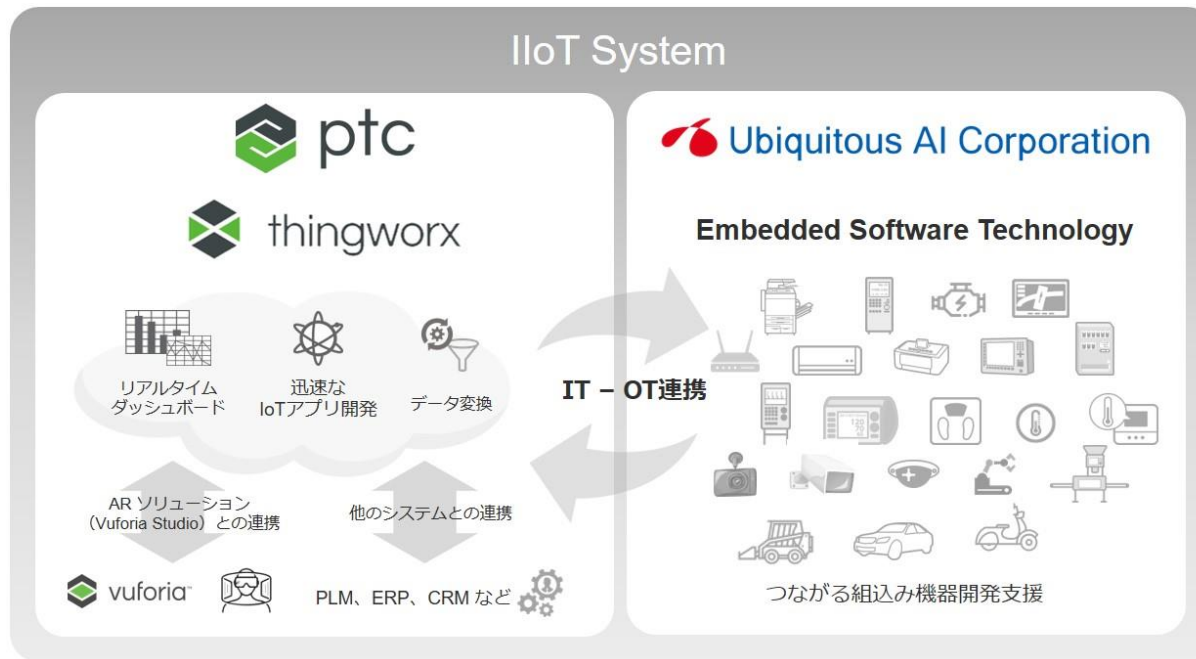
- 「BreezoMeter」とは
 - 超局所的空気質データの世界的リーダー企業による空気質モニタリングサービス
 - 世界各地の47,500台のセンサーからデータを生成
 - 世界中の空気質に関するビッグデータをリアルタイムで収集・検証・モデリング
- 「BreezoMeter」採用のポイント
 - 樹木と草の花粉情報を利用可能（**提供データの種類が豊富**）
 - **非常に細かい地点精度**でデータが取得可能（特に500m単位の情報を地図表示できることが高く評価）
 - 1時間毎に更新可能な**リアルタイム性**



<「ALLER-LAB」画面イメージ>

PTCジャパンと協業、産業機器のIoT化を支援 (5/12)

PTCジャパンのIT技術とユビキタスAIコーポレーションのOT技術で
産業機器のIoT化支援を目的に協業



■ 協業の目的

- 世界の製造現場でのIIoT（産業分野向けIoT）の普及に対応した産業機器向けソリューションの強化
- IIoTに必要なIT技術とOT技術の相互補完
- PTCのパートナープログラム加盟によるパートナーネットワークの活用

AIを活用した非接触ヒューマン・マシン・インターフェース 「MagiaTouch（マギアタッチ）」販売開始（5/13）



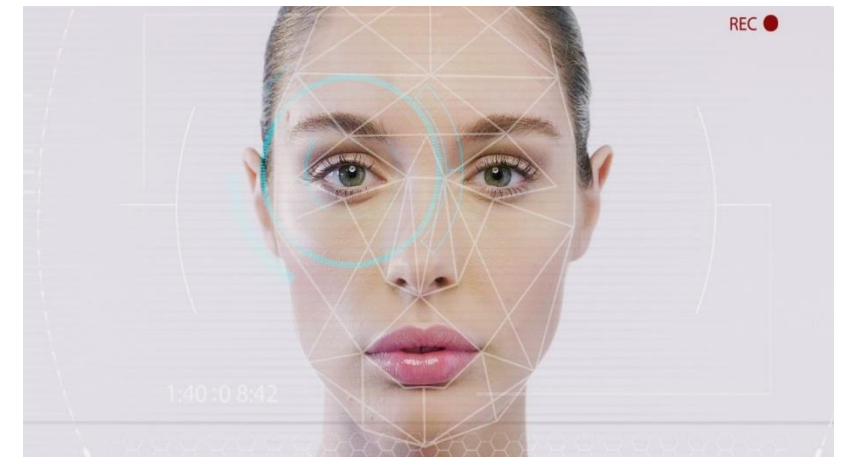
タッチレス操作で接触感染防止、
新たなユーザー体験を実現するHMIソリューション

■ 提供開始の背景

- 接触感染回避を目的とした非接触テクノロジーに対する需要の高まり
- Jungo社が自動車向けに提供する高信頼テクノロジーの他市場向け展開
- タッチレスによる没入型インターフェースが生む新たなユーザー価値創造への期待

■ 「MagiaTouch」の主な特長

- カメラ・マイクからのインプットにより**非接触での操作**を実現
- **没入型**のインターフェースで**新たな機器とのインタラクション**を創造
- 自動車向け製品で培った**高信頼テクノロジー**
- 最先端の**ディープラーニング、機械学習、コンピュータビジョン**を活用



Appendix

2020年3月期 第4四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
第4四半期	1月 6日	■ ユビキタスAIコーポレーション、Linux/Android高速起動ソリューション「Ubiquitous QuickBoot」累計出荷数 3,000万本を突破！ ～車載情報機器に加え、コンシューマー機器向けの販売を強化～
	1月15日	■ 若宮 正子氏がユビキタスAIコーポレーションのコーポレートアドバイザーに就任 ～労働環境を整備し、女性や高齢者が働きやすい会社を目指す～
	2月28日	■ ユビキタスAIコーポレーション、DarwinAI社と販売代理店契約を締結、特許技術 "AI building AI" を活用したディープラーニング モデル最適化プラットフォーム「GenSynth（ジェンソン）」を2月28日（金）より販売開始
	3月24日	■ 大正製薬株式会社が、ユビキタスAIコーポレーションが販売する「BreezoMeter」を採用 ～リアルタイムな花粉飛散情報サービス「ALLER-LAB」で活用～
2021年3月期 第1四半期 (参考)	5月12日	■ ユビキタスAIコーポレーションとPTCジャパンが協業、組込みソフトウェアとIIoTプラットフォームの連携で産業機器のIoT化を支援
	5月13日	■ ユビキタスAIコーポレーション、AIを活用した非接触ヒューマン・マシン・インターフェース「MagiaTouch」を提供開始 ～タッチレス操作で接触感染防止、新たなユーザー体験を実現するHMIソリューション～

Connecting the Future



Ubiquitous AI Corporation